【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成23年12月15日(2011.12.15)

【公開番号】特開2011-208959(P2011-208959A)
【公開日】平成23年10月20日(2011.10.20)
【年通号数】公開・登録公報2011-042
【出願番号】特願2010-74144(P2010-74144)
【国際特許分類】
Ｇ２１Ｃ　7/113　(2006.01)
Ｇ２１Ｃ　7/10　(2006.01)
Ｇ２１Ｄ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ２１Ｃ　7/10　ＧＤＢＪ
Ｇ２１Ｃ　7/10　Ｃ
Ｇ２１Ｄ　1/00　Ｘ

【手続補正書】
【提出日】平成23年10月31日(2011.10.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】
各固定用ピン１２の両側の端面には、図３に示すように、平行に配列された直線状の２つの溝（冷却材通路）２０Ａ，２０Ｂが形成されている。これらの溝２０Ａ，２０Ｂは、底面が曲面になっている溝である。溝２０Ａ，２０Ｂの深さは０．３ｍｍ以上であり、これらの溝の最大深さは固定用ピン１２の強度に影響を及ぼさない程度がよい。固定用ピン１２の端面で溝２０Ａと溝２０Ｂの間には、突出部２１が形成される。突出部２１の表面は、図３（Ｂ）に示すように、曲面になっている。舌状部１１Ｕに形成された貫通孔内に挿入された固定用ピン１２が、ハフニウム部材３Ｕを舌状部１１Ｕに取り付ける（図２参照）。舌状部１１Ｌに形成された貫通孔内に挿入された固定用ピン１２が、ハフニウム部材３Ｌを舌状部１１Ｌに取り付ける（図２参照）。それぞれの固定用ピン１２が各舌状部に取り付けられた状態で、溝２０Ａ，２０Ｂが制御棒１の軸方向を向いている。溝２０Ａ，２０Ｂのそれぞれの底面とシース６の内面との間に、図２に示すように、シース６の内面との間の幅が広くなった冷却水通路がそれぞれ形成される。